

平成 30 年度における稚内市の取り組み

1. 土のうステーションの整備

家屋などへの浸水害が予想されるような大雨時に備え、自衛してもらうための土のうステーションを新たに 5 箇所を整備した。



【土のうステーション】

2. 宗谷岬・東浦中継局の整備

市の情報伝達手段である緊急告知防災ラジオの難聴地区となっていた宗谷岬・東浦両地区へ中継局を整備、難聴状態を解消した。

整備に当たっては、平成 29 年度無線システム普及支援事業費等補助金を活用した。



【宗谷岬中継局】



【東浦中継局】

3. 避難場所看板の設置

避難所、避難場所の明確化のため、新たに市内 10 箇所に看板を設置した。



【避難所看板（避難場所兼）】



【避難場所看板】

北海道猿払村の取組

猿払村内自主防災会（2地区）・猿払村・稚内地区消防事務組合消防署猿払支署・猿払消防団と連携し、浜猿払地区は暴風雪想定、浅茅野地区では河川氾濫や豪雨災害を想定した防災訓練を実施。（訓練内容・避難訓練、救命講習、炊出し訓練、防災資器材取扱訓練）

浜猿払地区（2018年07月22日）



浅茅野地区（2018年09月30日）



浜頓別町の取組

■小学生を中心とした防災教育の実施

浜頓別小学校一日防災学校

- ・日 時 平成30年11月20日（火）
- ・実施主体 北海道、浜頓別町、浜頓別町教育委員会
- ・内 容
 - 1 学年…防災カルタで防災についての関心を高め、災害に対して自らの身を守るための方法を学ぶ。
 - 2 学年…新聞紙を使ったスリッパ作成を通して、災害に遭った時の生活を考えて対応することを学ぶ。
 - 3 学年・4 学年…関係機関から災害についての話を聞いたり、災害時に使用する車両を見ることで、災害から暮らしを守る様々な車両があることを学ぶ。
照明車（北海道開発局）、消防車・救助工作車（浜頓別消防支署）
 - 5 学年…災害時を想定し、身近にある材料で災害食を調理する。
～ハイゼックスを使った白飯、鮭缶を活用した三平汁～
 - 6 学年…浜頓別町のハザードマップを確認したり、災害時に快適に寝るための段ボールベッドを作成体験する。



平成30年度 中頓別町の取組

土砂災害危険箇所、確認及び啓発

平成30年8月30日14:00～

役場 市本 消防 星川

対象箇所	土石流	【上駒の沢・市橋の沢】	1箇所
		【清上橋の沢】	1箇所
	地滑り		1箇所
	急傾斜地崩壊危険		2箇所

上記5件の目視による確認、及び住民への啓発を行った。目視確認ではあるが相当量の大雨が降らない限り簡単には災害発生とはならないと思われる、また比較的災害起点位置より住宅が離れているため、警報等により、逃げ遅れを防げるものとする。ただし雨の規模によっては、要危険場所であると認識をすべきである。啓発の感触は、驚かれたが、決して煽るものではなく備えるべきことを話し、「今まで何も考えていなかったが、知れてよかった。」といった感想が聞かれた。

【上駒の沢・市橋の沢】



【清上橋の沢】



【地滑り】



上記以外に、数カ所土砂災害危険個所の確認を行ったところ、草等伸びていることから確認が難しかったものの、すぐに何かしなくてはいけないといった危険は感じられなかったが、大雨、地震等では危険個所になりうる場所であることを確認した。

平成 30 年度の防災啓発等の活動について

5月22日 築堤パトロール

中頓別派出所の呼びかけにより、役場、消防、土木現業所合同で、築堤箇所の確認、安全確認等を行った。

6月12日 道の駅ピンネシリに設置している防災コンテナの確認

中頓別派出所、役場、消防

6月13日 洪水危険地区、住民への啓発活動

中頓別派出所の呼びかけにより、役場、消防、社協合同で、松音知地区の河川周辺住民へのチラシの配布及び啓発を行った。

6月?日 洪水危険地区、住民への啓発活動

中頓別派出所の呼びかけにより、役場、消防、社協合同で、中頓別あかね地区の河川周辺住民へのチラシの配布及び啓発を行った。

本年度は、災害もあり避難訓練を予定していましたが中止となった為、この災害を踏まえた、役場（消防）職員による、状況予測型机上訓練（地震）を実施しています。

平成30年度における枝幸町の取組事例

地域防災計画（資料編）への掲載

- ・災害危険区域河川及びタイムライン設定河川

〈資料〉12-4 災害危険区域河川

12-4 災害危険区域河川

(i) 浸水害危険河川

町の区域内に所在する河川のうち、過去に浸水被害や河岸決壊等発生しており、災害の危険度が高い河川をいいます。本町には7箇所あります。

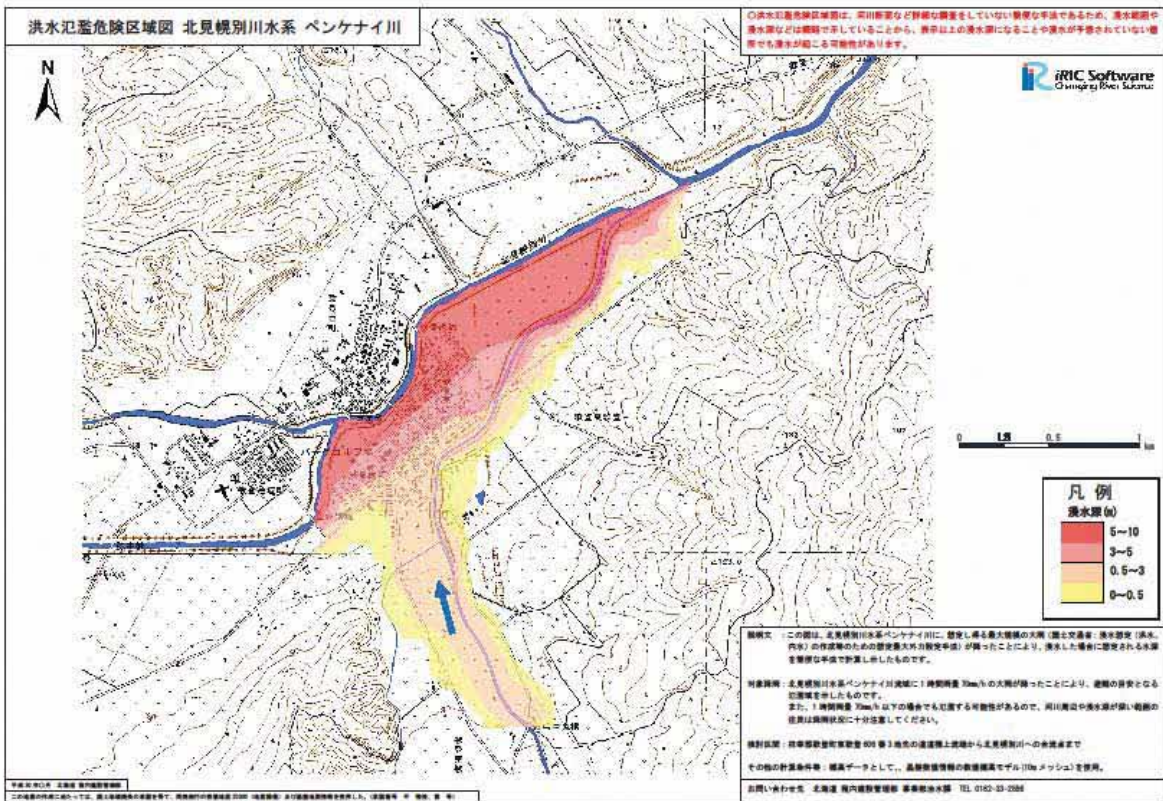
番号	地区名	水系	河川名	延長 (km)
1	新港町	エサシウエンナイ川	エサシウエンナイ川	3.6
2	下幌別、歌登西・中央、本幌別	北見幌別川	北見幌別川	36.6
3	歌登	北見幌別川	オムロシュベツ川	4.0
4	歌登	北見幌別川	ベンケナイ川	2.3
5	音標	音標川	音標川	19.5
6	徳志別	徳志別川	徳志別川	35.0
7	風烈布	フーレップ川	フーレップ川	23.0

12-5 タイムライン設定河川

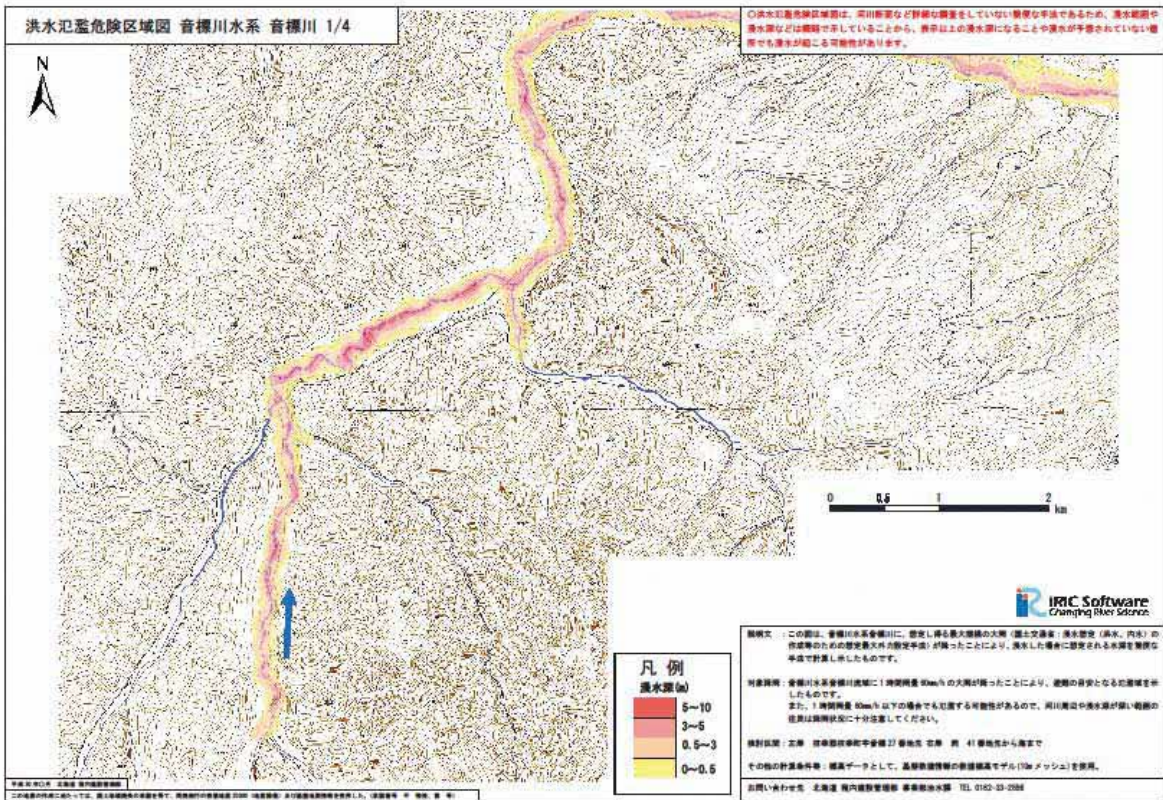
(ii) 洪水氾濫危険河川

町の区域内に所在する河川のうち、市街地を縦断し、過去に浸水被害の発生又は河川氾濫のおそれ等により、避難勧告・指示が見込まれる河川に対し、関係機関連携のもと、災害時発生する状況を想定し、事前に防災行動を起こすタイムラインを作成した河川をいいます。本町には2箇所あります。

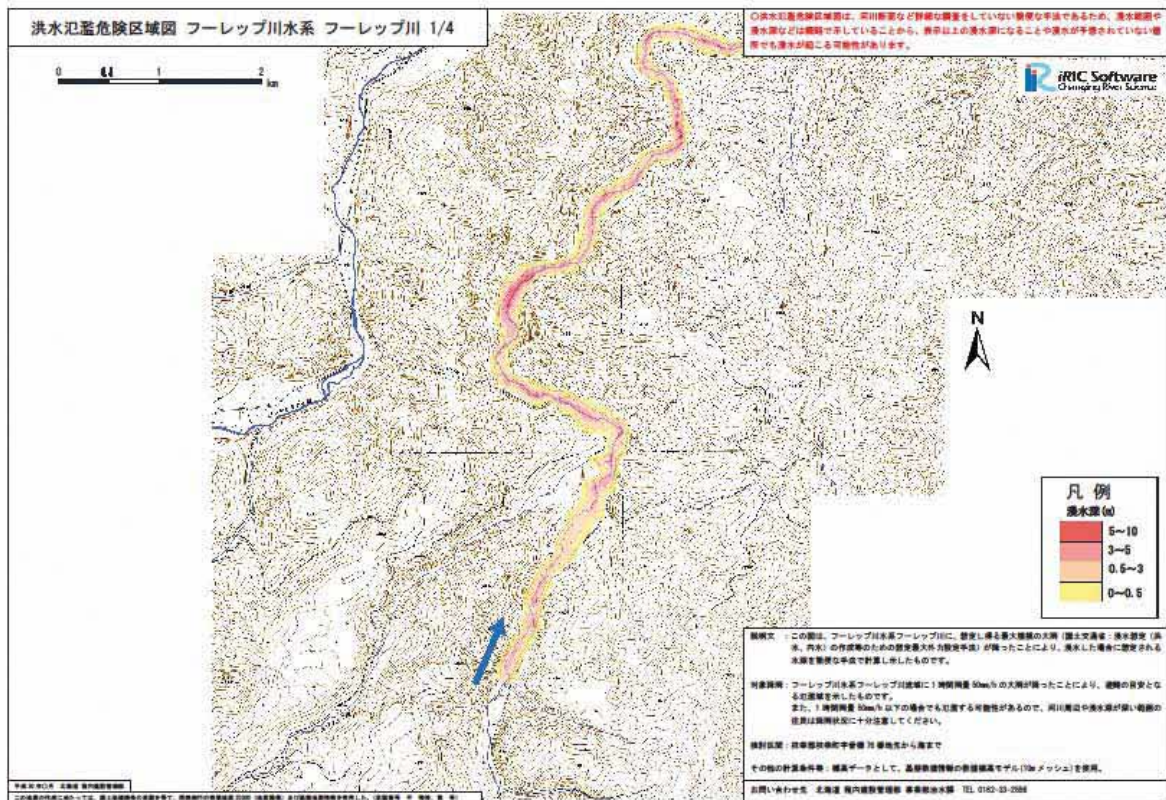
番号	対象地区	水系	河川名	延長 (km)
1	歌登南町、桧垣町、西町、東町	北見幌別川	北見幌別川	36.6
2	歌登桧垣町、西歌登	北見幌別川	オムロシュベツ川	4.0



8

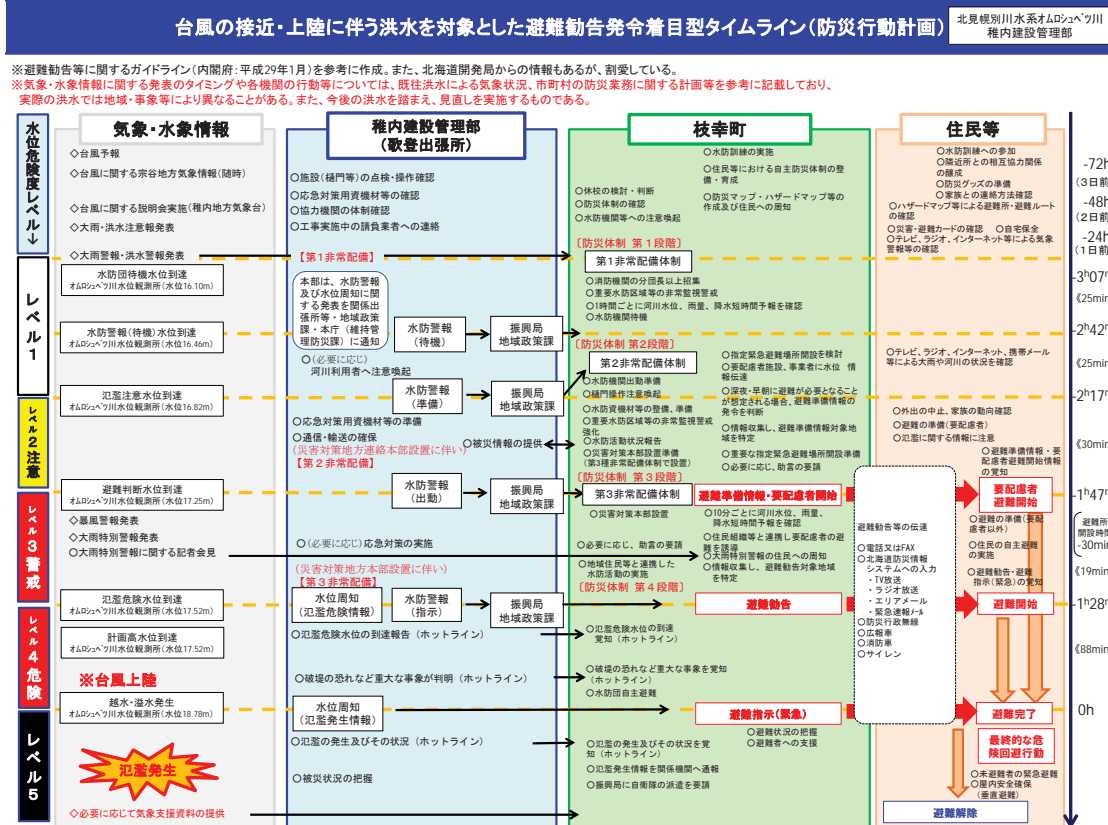
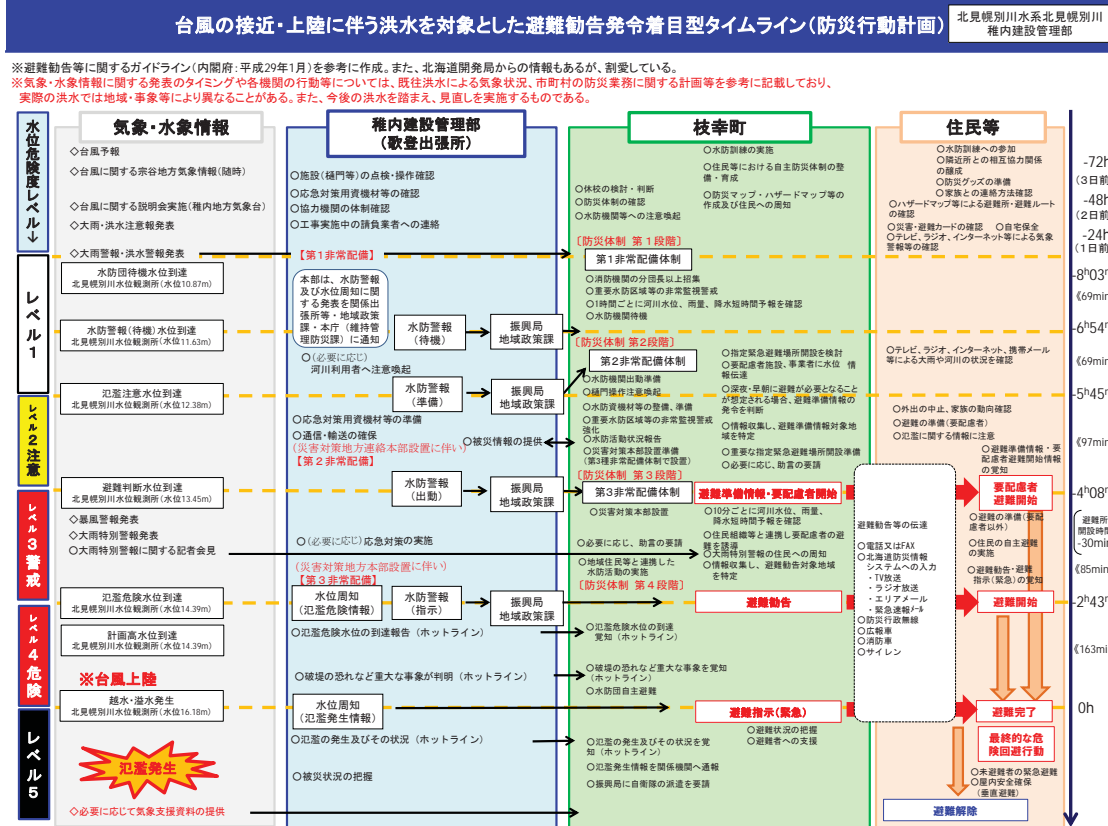


19



・タイムライン (防災行動計画) 北見幌別川・オムロシュベツ川

12-9 タイムライン (防災行動計)





礼文町の取組み

- 平時からの住民等への周知・教育・訓練に関する事項
- ・ 住民に対する防災教育を自治会の避難訓練において防災講話を実施している。
- ・ 児童生徒に対する防災教育を学校の避難訓練及び昨 year 本町で実施した「一日防災学校」において防災講話等を実施している。





礼文町の取組み

- 要配慮者利用施設等の自衛水防の推進に関する取組
- ・ 要配慮者施設の避難訓練において、利尻礼文消防事務組合礼文支署と共同で、管理者・職員等に対して、避難・誘導要領の説明を実施している。



〈平成30年度 利尻町における防災対策に関する取り組み〉

稚内地方気象台による防災講話（職員研修会）

1. ねらい

日頃、接する機会がない稚内地方気象台と利尻町関係各部署職員とが、講話や意見交換を通じて、日頃の業務や生活における防災・気象情報に関する知識や地震知識などについて理解を深める。

2. 日時 平成30年9月25日（火） 午前9時40分～午後11時40分

3. 会場 利尻町役場2階大会議室

4. 主催 利尻町

5. 協力 稚内地方気象台

6. 対象 利尻町関係各部署の係長職及び係職（※管理職についても参加可能）

7. 内容 気象講話、地震講話、意見交換

8. スケジュール

9:40 開会【進行：稚内地方気象台】

9:40～10:20 気象講話（40分）【講話：稚内地方気象台】

10:20～10:30 質疑応答（10分）

10:30～11:10 地震講話（40分）【講話：稚内地方気象台】

11:10～11:20 質疑応答（10分）

11:20～11:40 意見交換（20分）【進行：稚内11:40

11:40 閉会



利尻富士町での取り組み

●新たな浸水想定に基づき作成されたハザードマップの周知に関する取組

- ・平成 30 年 3 月に完成したハザードマップを全世帯に 1 部ずつ配布、転入者へ随時配付
- ・また、住民以外の観光客等への周知としてホームページ上でもハザードマップの情報を掲載

【H30.3 に完成したハザードマップ】



【HP 上での周知】



【北海道警察】宗谷総合振興局管内河川の減災に関する取組の実施状況

道警察における取組

- 所属における災害警備訓練の実施 など
 - ・ 平成30年度石狩水系豊平川総合水防演習への参加(6/17)
警察本部及び管轄警察署により
「災害対策現地合同本部運営訓練」
「河川・道路巡視訓練」
「救出救助訓練〔土砂埋没車両想定・河川増水想定〕」を実施
- 地域住民や学校・事業所等を対象とした、防災講話やDIG訓練の実施
- 市町村等主催の防災訓練への参加



H30年度総合水防演習への参加



住民参加訓練



学校における防災講話

今後の取組

- 地域住民も参加する災害警備訓練の企画・実施
- 防災講話・広報・訓練を通じた住民の防災意識向上

稚内地区消防事務組合消防本部の取り組み

②広範囲にわたる氾濫被害から地域を守り、被害を最小化するための水防活動・復旧に関する取組

■水防活動の効率化及び水防体制の強化に関する取組

・土嚢の作成及び積み方の講習会（稚内消防団現地教育訓練の一環）を実施

消防団員向けに河川氾濫や大雨などの際に使用する土嚢の作成及び積み方などの講習会（参加団員70名）を実施した。



利尻礼文消防事務組合 消防本部の取組み

利尻町女性防火クラブ員に対し、火災及び地震、津波に対する対応について女性防火クラブ防火教室として実施している。

■火災発生時における初期消火訓練、避難訓練



■DVDによる地震、津波、洪水に対する対応について



河川の減災に係る取組について（具体的内容資料）

南宗谷消防組合消防本部

【 取組事項① 】

小学生を中心とした河川の洪水の特徴を踏まえた防災教育の実施。

平成 30 年度に取り組んだ内容（先般回答した内容）

小中学校における消防訓練と併せて、防災講話を盛り込んだ内容を実施。

上記事項の具体的内容

火災や地震等の消防訓練時、必要に応じ、講話の中で河川災害についての内容に触れる。
(開催する訓練すべてに実施している訳ではない。)

【 取組事項② 】

関係機関の職員及び住民を対象とした防災教育や広域に分散する酪農施設への対応を踏まえた訓練の実施

平成 30 年度に取り組んだ内容（先般回答した内容）

各種防災訓練への参加

上記事項の具体的内容

消防署で開催している住民参加型のイベントにおいて、避難等についての内容の講話を行う。(酪農施設への対応については行っていない。)

【 取組事項③ 】

防災無線やホームページ等を活用した住民の水防災意識啓発のための広報の充実

平成 30 年度に取り組んだ内容（先般回答した内容）

関係機関と協力し対応した。

上記事項の具体的内容

消防署で開催している住民参加型のイベントにおいて、ポスターの掲示を行い、啓発を行った。

【 取組事項④ 】

的確な水防活動等を実施するため、リーフレットの配布やポスター掲示を通じ、水防団（消防団）員数の確保を図る

平成 30 年度に取り組んだ内容（先般回答した内容）

関係自治体と連携し、消防団員の確保に努めた。

上記事項の具体的内容

消防署で開催している住民参加型のイベントにおいて、ポスターの掲示を行い、普及啓発を行った。

【 取組事項⑤ 】

市町村防災担当職員を対象とする防災対応力の向上を図る取組を行う

平成 30 年度に取り組んだ内容（先般回答した内容）

取組への参加を行った。（消防機関として「災害対応」として捉えた。）

上記事項の具体的内容

車両救助等をメインとする研修会（座学）の中で、大雨等により河川が氾濫した際、車両が浸水するような都市型水害時における事案対応要領として、ハイブリッド車、電気自動車及び水素自動車等の対応について、各署にて研修を実施。

【 取組事項⑥ 】

市町村向け川の防災情報による河川水位や排水設備等情報の共有

平成 30 年度に取り組んだ内容（先般回答した内容）

関係部署での情報の共有を図った。

上記事項の具体的内容

当消防本部は、各 3 署で構成されており、各構成町が遠隔ということもあり、気象状況が大きく異なる。このことから、「川の防災情報」を活用するが、各署での判断で閲覧し、署内において情報共有を図る。

【 取組事項⑦ 】

災害時及び災害復旧に対する支援強化

平成 30 年度に取り組んだ内容（先般回答した内容）

災害発生時の関係機関との情報共有に努めた。

上記事項の具体的内容

本年は河川等の増水に伴う大規模な事案発生は認められなかったが、台風の接近や、爆弾低気圧等の発生前（予想）に係る、事前の災害対策会議等において、当該町との情報共有に努めた。

【 取組事項⑧ 】

災害情報の共有体制の強化

平成 30 年度に取り組んだ内容（先般回答した内容）

協議会の場等を活用し、災害情報を共有するよう努めた。

上記事項の具体的内容

前述同様、本年は河川等の増水に伴う大規模な事案発生は認められなかったが、特異的な事案があった際には、事後検証会等、災害情報の共有を図る体制が構築されている。